

事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

公表： 令和 2年 12月 25日

事業所名： ふわり諫早

		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	7	1		
	2	7	1		・特性や身体状態により、困難に感じる場合もある
	3	8			
	4	8		・利用する子の特性に応じて、活動内容を変更したり、環境設定を行っている ・定期的に見直しを行っている ・子どもたちのその時の調子に合わせて、活動室を作りかえたりしている	
業務改善	5	6	2	・日々、振り返りを行い改善点や改善方法について共有している ・振り返りはファイルに記入して、全職員が見るようにしている	
	6	8			
	7	7			
	8	8			
	9	7	1	・リモート研修などで確保されていたと思う	・支援中に抜けられない、研修に参加する機会が少ない
	10	8		・日々の振り返り、保護者との面談を通して支援計画を作成している	
	11	8			
	12	8			

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1	・全体のプログラムはチームで立案しているが、詳細については日々リーダーが立案している	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		・日々プログラム内容に変化をつけている	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成している	8		・OT、STとも連携し、支援計画を作成している	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	・支援開始前、可能な場合は前日や数日前から打ち合わせを行っている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		・振り返った内容については、記録として残し、参加できなかった職員も共有するようにしている ・全スタッフで行うことが難しい為、スタッフ会議録に残し、統一を図っている	
	19	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8				
関係機関や保護者と	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			
	23	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを支援している場合、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5			・医療機関との直接的な連携は不足していると考え ・現在利用なし
	24	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを支援している場合、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5			・連携体制について不足している部分もあると考え ・現在利用なし
	25	移行支援として、保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解を図っている	8		・保育所等訪問や連絡帳の共有、電話連絡等を用いて共有を図っている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容などの情報共有と相互理解を図っている	7			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		・年2回子ども医療センターから来てもらい、助言をもらっている	

の 連 携	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	4		<ul style="list-style-type: none"> ・(昨年)行事に学童の小学生に来て頂き、エイサー披露をして頂いた。そのような機会がもっと増えたらと思う ・当事業所しか利用していない、子供さんは関りが無いと思う ・コロナ感染防止の為、あまり活動ができなかった
	29	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	3		・今年度、コロナの影響により参加なし
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		・送迎時に話をする時間を設けたり、連絡帳を通して日々の情報共有に努めている	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	3		・現在は実施できていない為、改善していく必要があると考える
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	32	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容とこれに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8		・定期的な支援計画の見直しを行い、その都度保護者への説明を実施、同意を得てからの支援となっている	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	5		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で保護者等の開催はされていない ・現在は保護者会等を実施できていない ・コロナでできていないが、できる様になったら、また再開したい
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		・相談等であった際には、その日のうちに職員間で共有し、話し合いを行っている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8			
	38	個人情報に十分注意している	8			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		・情報伝達手段として何が有効であるか検討して、日々の振り返りを通して改善が必要な際には再検討を行っている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもあり、地域の方を招待する事はできていない ・コロナ感染防止の為、今年度は厳しい状況だった
ホ	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8		・定期的に訓練を実施できている	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		・定期的に訓練を実施できている	

非常時等の対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作などの子どもの状況を確認している	8		・利用開始前に保護者に記録(書類)を提出してもらい、確認を行っている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1		・医師の診断書がない場合もある(保護者の申請のみ)
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	2		・共有できていない場合もあり、改善が必要と考える
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		・定期的に研修が実施されている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7		・身体拘束を実施した時間、その時の子どもの状況についても記録として残している	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。